

在宅医療・介護に関するアンケート調査結果

医療福祉連携推進課

1 調査目的

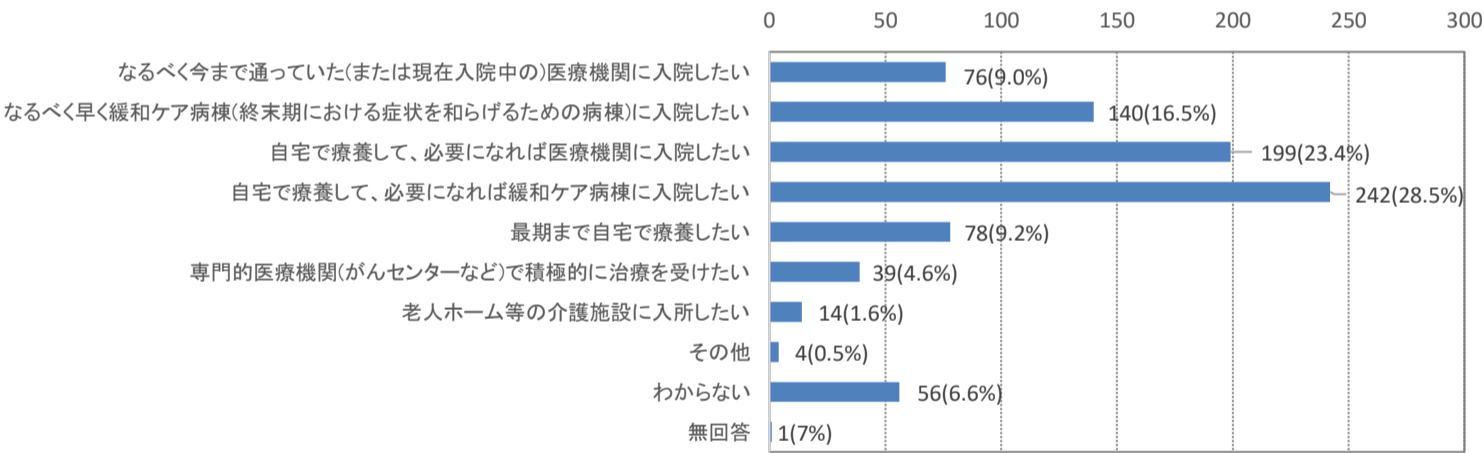
県民の医療・介護についての意識や生活の現状を把握し、今後の施策の参考とするため。

2 調査結果

問 1 もし、あなたが病気などにより治る見込みがなく、死期が迫っている（おおよそ6カ月以内）と告げられた場合、どこで療養することを希望しますか（希望に最も近いものを1つ選択）。

	回答者 回答数	849 人 割合
なるべく今まで通っていた(または現在入院中の)医療機関に入院したい	76	9.0%
なるべく早く緩和ケア病棟(終末期における症状を和らげるための病棟)に入院したい	140	16.5%
自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院したい	199	23.4%
自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい	242	28.5%
最期まで自宅で療養したい	78	9.2%
専門的医療機関(がんセンターなど)で積極的に治療を受けたい	39	4.6%
老人ホーム等の介護施設に入所したい	14	1.6%
その他	4	0.5%
わからない	56	6.6%
無回答	1	0.1%
計	849	100.0%

(人)

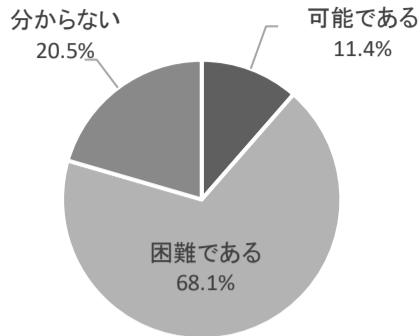


「その他」のうち主なもの

- ・住んでいる地域にできるだけ近い医療機関や介護施設で、身の回りのこともお願いしつつ、家族や知人にも積極的に会える環境で療養したい。
- ・死期に合わせて旅をして誰にも迷惑のかからないところで死にたい。

問2 ご自身が最後まで自宅で療養することについて、可能だと思いますか。 回答者 849 人

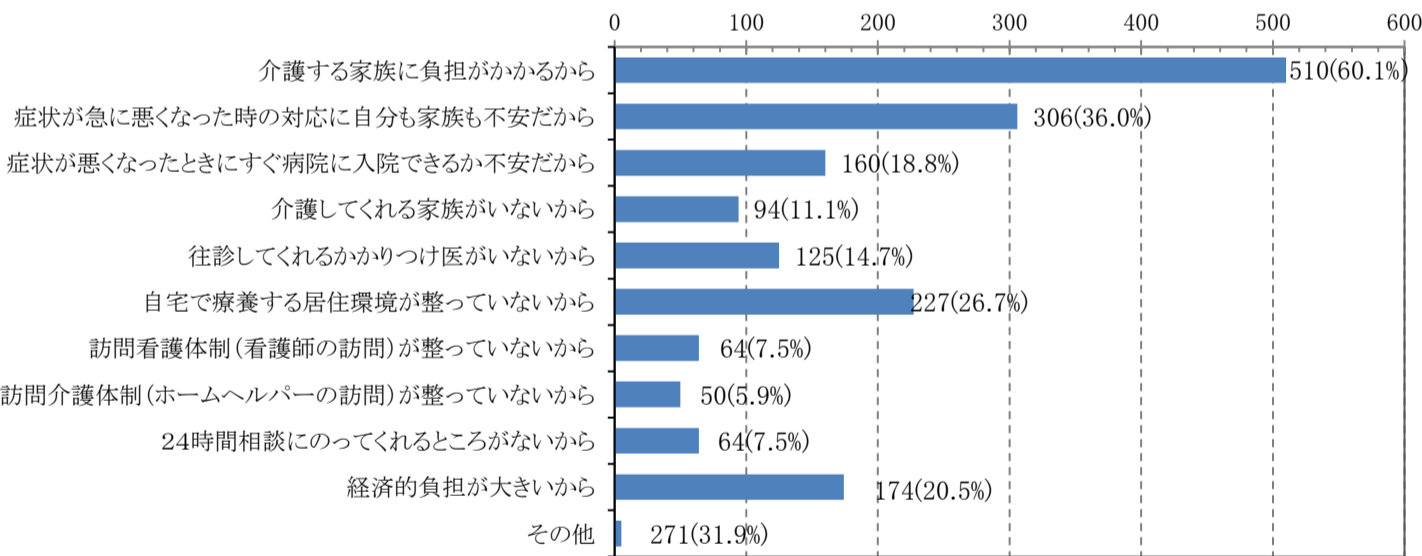
	人数	割合
可能である	97	11.4%
困難である	578	68.1%
分からない	174	20.5%
計	849	100.0%



問3 (問2で「困難である」と答えた方にお尋ねします。)
困難であると思う理由を次の中からすべて選んでください。

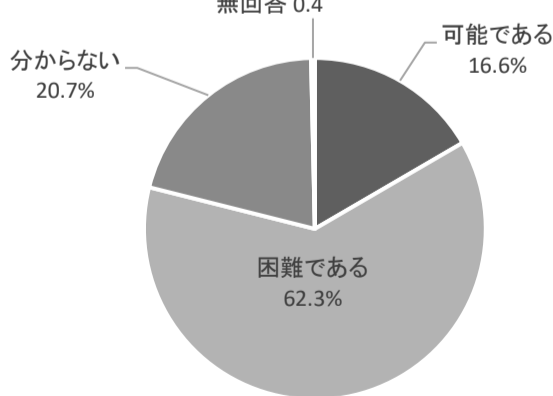
(複数回答)回答者 578人

	回答数	割合
介護する家族に負担がかかるから	510	60.1%
症状が急に悪くなった時の対応に自分も家族も不安だから	306	36.0%
症状が悪くなったときにすぐ病院に入院できるか不安だから	160	18.8%
介護してくれる家族がいないから	94	11.1%
往診してくれるかかりつけ医がいないから	125	14.7%
自宅で療養する居住環境が整っていないから	227	26.7%
訪問看護体制(看護師の訪問)が整っていないから	64	7.5%
訪問介護体制(ホームヘルパーの訪問)が整っていないから	50	5.9%
24時間相談にのってくれるところがないから	64	7.5%
経済的負担が大きいから	174	20.5%
その他	5	0.6%
計	1779	-



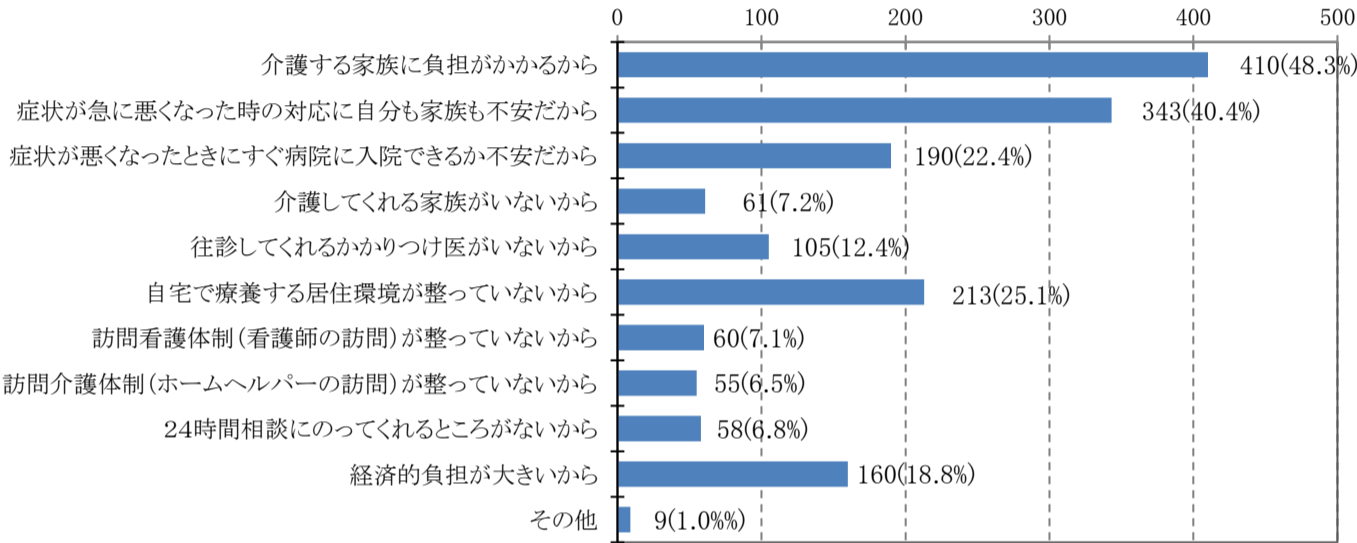
問4 ご家族が最後まで自宅で療養することについて、可能だと思いますか。 回答者 849 人

	人数	割合
可能である	141	16.6%
困難である	529	62.3%
分からない	176	20.7%
無回答	3	0.4%
計	849	100.0%



問 5 （問4で「2 困難である」と答えた方にお尋ねします。）
困難であると思う理由を次の中からすべて選んでください。
（複数回答） 回答者 529 人
回答数 割合

介護する家族に負担がかかるから	410	48.3%
症状が急に悪くなった時の対応に自分も家族も不安だから	343	40.4%
症状が急に悪くなったときにすぐ病院に入院できるか不安だから	190	22.4%
介護してくれる家族がいないから	61	7.2%
往診してくれるかかりつけ医がいないから	105	12.4%
自宅で療養する居住環境が整っていないから	213	25.1%
訪問看護体制（看護師の訪問）が整っていないから	60	7.1%
訪問介護体制（ホームヘルパーの訪問）が整っていないから	55	6.5%
24時間相談にのってくれるところがないから	58	6.8%
経済的負担が大きいから	160	18.8%
その他	9	1.0%
計	1664	-



問 6 在宅医療または介護についてご意見・ご要望・ご感想などございましたら、お聞かせください。
（自由記述）

○在宅医療・介護の体制整備

- ・地域一体となって、在宅医療できる環境が整っているとありがたい。
- ・介護する家族が会社勤めだと、働き方を変えなくては自宅での介護は難しい。
- ・職場が在宅介護に理解あり、かつ職場環境が整っているなら可能だと思う。
- ・24時間家族以外の他人介護・看護が受けられるような状態であればよいが、仕事を続けながらで夫婦2人ではどうにもならない。

○人材の確保

- ・訪問介護の人手不足の問題を近くで耳にし、将来に不安を覚える。
- ・今後の人手不足により在宅医療や介護が受けられるか心配。
- ・介護・在宅医療を支える人たちの生活面の支援が足りてなく、離職率の高さを何とかするべきだ。

○施設の整備

- ・特養の待機問題が気になる。
- ・在宅医療を支える医療機関が少なく不安。また国の制度改正があるたびに変更等があり、今の制度が永続的に使える安心感を持たせる必要があると感じる。

○介護者への支援、補助の充実

- ・肉体的、精神的に家族への負担が大きくなる。
- ・在宅での対応は、家族の負担が大きく、また家族のや理解や協力がなくてはほぼ不可能だと思う。

○費用面について

- ・住み慣れた自宅で療養したい気持ちはあるが、実際設備や介護者の負担を考えると、症状が重くなったら病院に行くしかないと思う。
- ・入院した方が経済的に負担が大きい気がする。 介護保険を使えば、自宅での療養が安く実現できるならそちらを望む。
- ・在宅で医療を受けるためには、医療機器や介護設備などの整備が不可欠であり、それにかかる費用負担が大きな障壁となっている。補助金制度の拡充を望む。

○普及啓発

- ・訪問介護制度に関する知識が乏しい。
- ・在宅医療について調べたいとき、相談したいときどこに問い合わせればよいのか分からない。
- ・在宅医療がまだ身近なものとなっていない為、基礎知識が学べるサイトなどが整備されると良いと思う。

○その他

- ・家族をできる限り家で介護することが普通と思える。
- ・その時になってみないと分からない。
- ・最後は安らかに死にたい。
- ・このアンケートで自分の終末期について考えるきっかけとなった。
- ・本人の意思が尊重されることが重要。
- ・延命のための在宅医療や介護をしていくのではなく、緩和ケアを重視して欲しい。